



## 『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

### 第10号(2008年5月9日)

#### 「中国からの投資」

今後、国際優良企業へと成長する可能性が高い新・国際優良企業は、今後新たに台頭する外国人投資家の投資対象になる可能性が高いと考えております。今回は、そのなかでも特にソブリン・ウェルス・ファンド(SWF)という国家の資金を運用している基金についてお話させていただきましたが、新たな外国人投資家として考えられるものは他にも存在します。

近年、急速な経済成長が続く中国では金融資産が蓄積され、中国国内の株式市場のみならず、今後は日本株への投資が期待されています。既に2,000億ドル程度の資産があると言われている中国版SWFの中国投資有限責任公司(CIC)は、日本株の専門家の採用活動を始めており、いよいよ日本株への投資をスタートさせようとしているのです。

さらに日本株への投資は、中国の投資家からも今後期待されます。近年、中国政府は中国国内の機関投資家による海外資産運用を認める制度を導入しました。これは「適格国内機関投資家制度(QDII)」と呼ばれ、06年4月に銀行・保険会社に認可が下り、07年7月からは証券会社・基金管理会社(運用会社)にも認可が下りようになると、拡大が続いています。

QDIIの認可投資枠は2007年末には約400億ドル程度であったものが、2008年末には約1,400億ドルまで拡大するとの予測もあります。(WIND資訊、2008年1月29日)

そして、日本株への投資も2008年2月22日から解禁され日本の株式市場や公募の投資信託への投資が可能になっております。

現状では中国国内から日本の株式市場への資金流入はわずかに過ぎないのではないかとされており、市場への影響も少ないと考えられますが、中国の経済成長を考えると将来的に大きな影響力を持つ可能性が高いと考えられます。

中国の投資家が日本に投資をする際には、国際的に活躍していて、中国でも会社の名前が知られている銘柄にまず注目する可能性が高いのではないのでしょうか。その際、海外で大きく売上・利益が拡大していると期待される、新・国際優良企業は、投資対象になる可能性が高いと考えられるのです。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。